

2022年5月5日

市民生活協同組合ならコープ
理事長 吉田 由香 様

環境監査委員長 和田 武 和歌山大学客員教授
当麻 潔 奈良県地球温暖化防止
活動推進センター長
辻村 輝美 組合員代表
松村 和子 組合員代表
藤田有紀子 ならコープ常任理事
森本 宏美 ならコープ理事
竹本万里子 ならコープ理事
金光 結香 ならコープ監事

2021年度 環境監査報告書

ならコープ環境監査規程第6条、第7条及び第8条に基づき、環境パフォーマンスの有効性及び今後の目指すべき活動等の提案について、監査を実施しましたので、下記の通り報告いたします。

I. 監査概要

2021年度ならコープ環境活動まとめ書類監査（監査期間2022年4月21日（木）～4月27日（水））

II. 2021年度実績の評価

1. 前回監査の「今後の取り組みにあたっての意見」に真摯に対応し、多岐にわたる環境活動を組合員、職員、各種団体等ステークホルダーとの協同により展開し、ならコープでんきのCO₂排出係数の低減、燃料使用量の削減により、最も重要な二酸化炭素排出削減目標を大幅に超過達成できていることを高く評価します。
2. 下市ステーションは、太陽光発電・蓄電池・V2Hを導入しており、エネルギー自立や防災対応の先駆的モデルとして高く評価できます。
3. 店舗の改装時には自家消費型太陽光発電や省エネ設備等の環境対応に積極的に取り組んでいることは高く評価できます。
4. 新型コロナウイルス感染症感染拡大が続く中、屋外での活動や自宅でも参加できる環境イベントの開催は、参加組合員が増えており評価できます。
5. ミックスキャロットの紙ボトル化、ラベルレスのペットボトルなど、組合員が見てわかるプラスチック削減の商品化が進んでおり、高く評価できます。

III. 今後の取り組みにあたっての意見

1. 事業活動でのCO₂排出量削減のため、電気使用量を減らすことやCO₂排出量の半分を占める燃料削減に向けたEV車両の計画導入に期待します。
2. 家庭でのCO₂排出量削減のため、地球温暖化やエネルギー問題について組合員や職員の理解を深め、ならコープでんきの普及に取り組まれることを期待します。
3. 防災やエネルギー自立の観点から、下市ステーションに導入された先進的な環境設備を自治体など関係団体に広げることを期待します。また、組合員・自治体・地域と連携し、バイオマス発電を含むさらなる再生可能エネルギー導入をすすめることを期待します。
4. 組合員とともに、商品提供・商品購入の工夫を行い、食品に使用されるプラスチックを減量して家庭ごみに占めるプラスチック容器包装材が減少することを期待します。
5. 事業活動においてキャンセル品や管理期限を超えた食品については、地域内で消費することで廃棄を出さないように、これまで提供できなかった生鮮品などを居場所づくりに取り組む個人や団体に提供できるような仕組みづくりを期待します。

以上

環境監査委員会 様

2022年5月16日

環境監査報告書への対応

ならコープの2021年度の環境に関する取り組み全般について、前進面への評価と、今後の取り組みにあたってのご意見・ご提言を賜り、深く感謝申し上げます。ならコープグループ役職員一同、環境負荷の低減と地球温暖化防止を中心とした持続可能な循環型社会構築に向けた取り組みを、組合員とともにすすめてまいります。今回の監査で評価いただいた内容を励みとし、「環境監査報告書」でご指摘いただいた内容については、真摯に受け止め、以下のように対応いたします。

現在、環境問題に関する情勢は大きく変化し、想定を上回る水害や干ばつが全世界で起こり、私たちの生命や財産を奪う事態になっています。新型コロナウイルス感染症は、経済のグローバル化や地域のボーダレス化、地球環境破壊の流れが感染拡大の要員となっており、人類活動への警鐘と考えられます。また、ロシア軍のウクライナ侵攻は民主主義や人道に対するだけでなく世界のCO₂削減努力に対する破壊行為でもあり、即刻中止されなければなりません。地球温暖化問題は人間が原因であることを肝に銘じ、脱炭素に向け全世界とともに私たちひとりひとりがより一層行動していく必要があります。

ならコープは2030環境ビジョンを策定し「子どもや孫のために美しい地球と自然を残したい」という純粋な想いと倫理観を掲げ、CO₂排出量、プラスチックや食品ロスを減らすことに取り組みます。

＜ご意見についての対応方針＞

1. 地球温暖化や大規模災害への備えとして下市ステーションに導入した太陽光発電と蓄電システムを脱炭素に積極的な自治体に提案し、災害時に必要な電気を再生可能エネルギーでつくることに貢献します。また、水力・バイオマス（生ごみ・木質資源）・太陽光などの再生可能エネルギーの拡大に自治体や地域の方々と連携して取り組むとともに、組合員家庭で発電した太陽光発電の買取（卒FIT）対応を行うことで「ならコープでんき」の脱炭素化をすすめます。
2. 「ならコープでんき」の普及は化石燃料から再生可能エネルギーへの転換を後押しし、福島第一原子力発電所の事故を教訓とする原子力発電に頼らない社会を目指す取り組みです。これからも機関紙「あをがき」の紙面等で組合員・職員と学習を深め、普及啓発に取り組んでまいります。ならコープでんきの利用者を増やすことで奈良県全域のCO₂排出削減に貢献します。
3. 2022年度改装予定の「ならコープ with ローソン真美ヶ丘店」「ディアーズコープたつたがわ」に最新式冷蔵冷凍ショーケース導入、太陽光発電で発電した電気を自家消費することで電気使用由来のCO₂排出削減に取り組みます。また、配送時のガソリンや軽油など化石燃料の使用量削減に向け、EVトラックを2022年度に3台実験導入、第13次中期計画期間（2022～2024年）には20台導入できるよう計画します。合わせて配送拠点の見直しを行い、走行距離削減に取り組みます。
4. CO・OP商品では「減らす」「繰り返し使用」「再資源化」「植物由来素材」の視点でプラスチック削減に取り組んでいます。CO・OP商品以外でも取引先と商品のプラスチック削減に向けた協議を行い家庭ごみ削減に貢献します。2022年4月に施行されたプラスチック資源循環促進法を遵守するとともに店舗レジで配布するカトラリー類の削減に向け、組合員の関心や協力を得ながらプラスチック削減に向けた取り組みの拡大に努めます。
5. 食品ロス問題に対してはフードドライブの実施や、店舗や無店舗事業の余剰品のNPO法人フードバンク奈良への寄付、フードバンク奈良を通じての子ども食堂への商品提供等に取り組んでまいりました。2022年度はこれまで活用できなかった組合員からのキャンセル品や冷蔵・冷凍商品等の内部販売開始、無店舗事業でのフードドライブなど、まだ食べられる食材を無駄にしない仕組みづくりに取り組めます。

以上